

地域の小学生を対象としたスポーツ指導実践

保健体育講座・田中雅人

1. 授業の概要

この授業では、愛媛大学総合型地域スポーツクラブの会員を対象にしたスポーツ教室を企画・運営することによって、スポーツクラブの果たす役割について理解すること、地域の子どもを対象にしたスポーツ指導実践を行うことによって、運動・スポーツに役立つ知識と指導スキルを習得することを目的とした。なお、到達目標を、1) 総合型地域スポーツクラブの役割について説明できる、2) クラブ会員を対象にしたスポーツ教室を企画・運営できる、3) 一般市民を対象にしたスポーツイベントでの指導とその評価ができる、4) 主体的にグループワークに取り組むことができるの4つとした。

愛媛大学総合型地域スポーツクラブには、9つのスポーツ教室があり、そのうちの4つは小学生を対象とした教室で、約230名の会員がいる。各教室は、年20回程度開催され、本授業の受講生（4年生）は、これまでの経験を踏まえ、指導的立場で教室運営をサポートしてきた。

また、（公財）松山市文化・スポーツ振興事業団が主催した「アクティブ・チャイルド・プログラム in 北条」のスタッフとして指導実践を行った。アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）とは、（公財）日本体育協会が、子どもが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得するための運動プログラムとして作成したもので、楽しみながら積極的にからだを動かすことを目的とし、本イベントには、約100名の小学生が参加した。

受講生は18名で、これまでに習得した知識やスキルを用いた指導実践を行い、その結果を適切に評価できることを主眼に置いた。なお、スポーツ健康科学課程スポーツ指導者養成コースでは、必修科目となっている。成績評価は、スポーツ教室での指導実践と省察レポート（50点）、アクティブ・チャイルド・プログラムでの指導実践と省察レポート（50点）とした。

2. 事前指導の改善

ACPの事前指導は、昨年度の反省を踏まえて、以下の点に留意した。

- ・各種目を担当するグループのリーダーを決め、指導体制を明確にした。
- ・各種目のねらい（必要な体力要素、運動強度、運動量など）と展開の方法やバリエーションについて説明した。

- ・昨年度の活動の様子を紹介し、参加者の予想される行動について説明した。

3. ACPを通して得られた気付き

省察レポートから、ACPを通して得られた気付きは、以下のようにまとめられた。

- ・子どもにとっての遊びの必要性
 - 「遊びや運動を幼い頃から習慣づけることの重要性」
 - 「発想力や創造力、表現力などすべてにつながってくる」
- ・発達段階を考慮した遊びの工夫
 - 「発達段階に合わせた内容、ルールや遊び方が必要」
- ・子ども同士が関わる場の重要性
 - 「子ども同士のコミュニケーションや発言の場が大切」
- ・子どもへの対応の仕方
 - 「ネガティブな問いかけよりもポジティブな問いかけ」
 - 「わかりやすく説明することの難しさを再確認」
- ・豊かなスポーツライフの支援
 - 「子どもたちの今後のスポーツライフが大きく変化する」
 - 「健康で豊かな生活が送れるようにサポートする」
- ・大人の役割
 - 「子どもたちへの働きかけを大人が行う必要がある」
 - 「大人たちのポジティブな対応が子どもたちに影響」
- ・教育現場での活用
 - 「教育現場でも学んだことをしっかり活かしていきたい」
 - 「授業づくりができるよう教材研究等に励んでいきたい」

4. 地域社会を核とした教育とのつながり

地域の小学生を対象としたスポーツ教室の企画・運営、およびスポーツイベントの指導スタッフとしての実践を通して、子どもを対象とした運動遊び・スポーツ指導のねらいについて理解を深めることができた。また、対象となる子どもの発達段階に応じた活動プログラムの作成と実践が求められる、競技スポーツとは異なる知識・技能やコミュニケーション力などを高める機会となった。「大人の自分たちが忘れかけていたことを、子どもたちから教えてもらえる大切な時間となった」という学生の言葉が、本授業の成果を表している。近年、子どもの体力低下が深刻な問題となっているが、その原因のひとつは、運動遊びやスポーツを行う環境の減少である。子どもたちが、将来豊かで充実したスポーツライフを送るための礎を築けるように、本授業での指導実践を通して獲得したスキルを活かして欲しいと願う。